

1. 参考文献

・黒田晁生著『入門金融』（第3版）東洋経済新報社、2002年

2. 直接金融と間接金融とは？

・直接金融：資金不足主体 本源的証券 資金余剰主体
 間接金融：資金不足主体 本源的証券 金融仲介機関 間接証券 資金余剰主体

・部門別では資金余剰主体：家計（2004年度末<確報>の金融資産・負債差額は+1,034兆円）
 資金不足主体：非金融法人企業（同-492〃）+ 一般政府（同-397〃）+ 海外（同-186〃）

3. わが国の資金余剰主体・資金不足主体の特徴（資金循環統計より）

(1) 家計の金融資産の特徴・・・間接金融が圧倒的に優位（前回資料参照）

(2) 非金融法人企業の金融負債の特徴

・合計1,246兆円。うち貸出（企業からみると借入）416兆円、株式・出資証券^{*1}450兆円、株式以外の証券115兆円、企業間・貿易信用^{*2}175兆円ほか

*1 株式・出資証券については、相互持合いにより両建てで拡大している可能性が高い（株式・出資証券を非金融法人企業が資産として134兆円保有+金融機関が同166兆円保有）

*2 企業間・貿易信用については、非金融法人企業は金融資産側としても225兆円保有。

(3) 一般政府の金融負債の特徴

・合計892兆円。うち国債・財投債^{*3}516兆円、政府短期証券96兆円、貸出186兆円ほか

*3 国債・財投債を資産として保有しているのは、大半が金融機関（シェア82%）、残りは一般政府57兆円（9%）、家計21兆円（3%）、海外28兆円（4%）、非金融法人企業1兆円など。
 証券化が進んでいる一般政府の資金調達においても、実態は間接金融が優位。

(4) 海外の金融負債の特徴

・合計436兆円。うち対外債権等^{*4}343兆円、貸出（海外からみると借入）70兆円ほか

*4 対外債権等を資産として保有しているのは、金融機関（シェア47%）、残りは一般政府（28%）、非金融法人企業（20%）、家計（4%）など。

4. 貸出の重要性

・日本全体の貸出は1,519兆円。うち1,365兆円（シェア90%）は金融機関の貸出（資産側）。

・金融機関の貸出のうち、民間金融機関貸出は711兆円、公的金融機関貸出は462兆円。

・もっとも、時系列でみると、金融機関の貸出残高は98年度以降、減少傾向。また、公的金融機関貸出のウェイトは02年度まで拡大。

民間金融機関貸出は93年度から横ばいに転じ、96年度から減少が続く（90年を下回る）。
 公的金融機関貸出は急拡大した後、01年度から減少に転換（なお90年と比べ約7割増の水準）。

